

# いわき農林水産ニュース

(ふくしまからはじめよう。「食」と「ふるさと」新生運動ニュース)



2月号 発行 平成28年2月25日



## 「いわき地方有害鳥獣被害防止対策研修会」を開催しました！

1月29日（金）、県いわき合同庁舎において、中山間直接支払事業実施地区の農業者を対象に、「イノシシ」の農作物被害対策に係る研修会を開催しました。いわき市内では、特にイノシシによる被害が問題となっています。

栃木県の鳥獣被害防止アドバイザーの原田晴司（一般社団法人 栃木県猟友会小山支部）氏より、具体的な箱わなによる捕獲事例と捕獲技術のアドバイスを受け、参加者は真剣な表情で耳を傾けていました。栃木県での捕獲技術は聞き慣れない内容もあり、「これまで実施していたことに更に工夫を加えて、効率の良い捕獲をしてほしい」とのお話をいただきました。

いわき農林事務所からは、電気柵設置時の注意点と捕獲前の集落単位での「話し合い」や「環境整備」が必要であることを説明しました。

いわき地方振興局県民部からは、狩猟制度や免許に関する情報提供、いわき市農政課からは捕獲に対する各種事業、捕獲助成について説明がありました。

参加者からは、捕獲したイノシシの処分が大変苦労していること、捕獲者への助成予算の確保等要望が多数寄せられました。

研修会でのアンケート調査結果では、出席者より「わかりやすい内容だった」との評価を得ましたので、今回の講演会を通じ、今後も集落単位での鳥獣被害対策の合意形成を進めたいと考えています。



(狩猟免許や事業についての意見交換)  
(農業振興普及部)

## 「平成27年度ステップアップ講座 経営セミナー」を2回開催しました！

「平成27年度ステップアップ講座経営セミナー」は、県いわき合同庁舎において、「経営分析」と「売上げ向上」をテーマに2回開催しました。

本セミナーは、農業者が自ら経営目標を立て、その目標に向かって経営改善、営農活動を行い、その結果を評価分析し次年度以降に反映させるなど、経営能力の向上を目的に毎年開催しています。

第1回目は、平成28年2月3日（水）に木幡会計事務所の木幡仁一（じんいち）税理士を講師に迎え、営農活動を進めるための基礎となる「税制改正の内容と今後の方向」に関する情報提供及び「決算書の見方」、「経営分析」、そして今年から始まるマイナンバー制度について講義をしていただきました。

また、第2回目は2月12日（金）に、POPセンター福島代表の川村洋一氏を講師に迎え、売上げにつながるPOP広告の作り方について演習を含めて講義をしていただき、その後、いわき農林事務所から、食品表示法についての講義を行いました。

第2回目の演習では、参加者が決められた文言を使って、自分なりにPOPを作成した後、講師のアドバイスを受け、再びPOP作成に取り組みました。

その結果、自分のPOP表示が、簡単な修正でとてもわかりやすくなったことに、皆驚きの声を上げていました。

参加者は、今回のセミナーで学んだ経営分析やPOP作成のコツを、今後の農業経営に生かしていきたいと感想を述べていました。



(川村氏によるPOP作りの演習（第2回経営セミナー）)

(農業振興普及部)

## 「平成28年いわき市森林組合 林業労働安全衛生講習会」の開催！

1月15日（金）、中央台公民館において、いわき市森林組合主催による林業労働安全衛生講習会が開催されました。

この講習会は、いわき市森林組合が林業労働災害の未然防止のため毎年開催しており、組合職員や作業班、関係事業者など約100名が参加しました。

最初に、主催の田子代表理事組合長より、「平成27年は無事故無災害で事業を終えることができた。日頃からの一人一人の安全衛生に心掛けた結果である。引き続き新年も安全衛生に心掛け無事故・無災害を継続して欲しい」とのあいさつがありました。

続いて、林材業労災防止協会湯田安全管理士より、「林業労働災害防止対策について」と題した講話があり、最後に全員で「ゼロ災でいこう」を唱和し、講習会は終了しました。

講習会終了後は、参加者から、「安全作業の重要性を改めて認識した」との声も聞かれ、林業労働災害未然防止への意識の向上が見られました。林業の作業環境は、条件が一樣ではないため、労働災害の発生頻度が高く、重大事故になる傾向があり、継続した取組が求められています。

県においても、安全パトロール等を通じて労働災害の未然防止に積極的に取り組んでいくこととしています。



(田子代表理事組合長あいさつ)  
(森林林業部)



## 木とのふれあい創出事業 「出前講座」を実施しました！

2月4日（木）、内郷にあるいわき市立綴小学校において、4年生14名を対象に木とのふれあい創出事業「出前講座」を実施しました。

木とのふれあい創出事業は、自然素材の木材を使った物作りを通じ、子どもたちに木材が生産される森林や木材そのものに対する理解を深めてもらうことを目的に、学校への木工工作用資材の提供のほか木工工作技術の指導を行う「出前講座」を実施するものです。

今回の出前講座では、田人林業研究会から豊田会長をはじめ3名の方を講師に迎え、森林や林業の役割についての講話や木工体験として木製プランターづくりの指導を行いました。

プランターづくりでは、児童3人ずつの班に分かれ、組立作業を行いました。最初は慣れない金槌に、釘が途中で曲がってしまうなど苦労していましたが、講師の指導もあり、次第に上手に釘打ちができるようになり、授業時間内に予定を上回る10個のプランターを完成することができました。

児童たちからは、「自分の家にも欲しい」といった感想が出るほど満足な出来映えだったようです。

春には作成したプランターにきれいな花が植えられ、学校の緑化活動に活用される予定です。



(上手に作れるかな?)



(完成したプランターと)  
(森林林業部)



## モニターバスツアーの レポート結果について

平成27年10月24日（土）及び31日（土）に開催した「いわきの今を見に行く！モニターバスツアー」の参加者に提出していただいたレポートを紹介し（ツアーの詳細は平成27年11月号をご覧ください。）。

参加者へは、次の項目について意見を寄せていただきました。

### （1）福島県に対するイメージの変化について

参加者のほぼ半数は、福島県出身の友人・知人等から福島県の現状について聞いており、訪問そのものについて不安等はなかったが、県産食材に対する放射性物質検査の取組等を実際に見て、県産食材の安全性について納得できた、という意見でした。

一方で、震災時に関東以西に居住していたため、震災に関連する出来事はニュースの中だけで放射性物質の検査や風評被害等について実感が持てないでしたが、ツアーを通じて農林漁業者の苦労を感じたという意見もありました。

### （2）見学先での安全・安心に向けた取組について

ツアー前の放射性物質検査体制の認知度はばらつきがありましたが、今回のツアーを通じて、安全性が確認されたもののみ出荷されていることが納得できたという意見が多くありました。

米の全量全袋検査についても、ニュースで見た時の印象とは異なる、米袋に貼付されるQRコードで誰でも調べられる点が画期的である、といった意見がありました。

### （3）福島県産食材が消費者から安全・安心の信頼を得るために行うべき取組について

主に、次のような意見がありました。

- ・検査体制等の取組をまとめたドキュメンタリーを制作する
- ・SNSで積極的に情報発信する
- ・全国のスーパーやデパートなどの食品売り場で県産食材の美味しさをPRする映像を放映する
- ・首都圏で福島県の料理や食材を取り扱った復興市、フェアを行う
- ・県内外を問わず多くの消費者が放射線に関する知識を学習できる機会を設ける
- ・B級グルメやゆるキャラ等流行の素材と復興という要素を掛け合わせる

お寄せいただいた意見等は、今後の情報発信活動や風評対策に活用していきます。

（企画部）



## 福島県漁青連リーダー研修会！

2月12日（金）、湯本温泉「松柏館」において、福島県漁業協同組合青壮年部のリーダーを対象とした研修会が開催されました。

本研修会は、毎年実施されており、今年は、県内各地域の若手漁業者の代表約70名が参加しました。

研修会では、県水産試験場による放射能に関する研究成果や水産資源の現状と管理利用についての講義、また、海上保安部からは、海難事故の発生事例紹介や事故を防止するための説明が行われました。



（水産試験場の講義）



（救命胴衣の作動体験）

（水産事務所）





## 「いわき里山交流フェスタ」を 開催します！

2月28日（日）、いわき市小名浜さんかく倉庫2号棟 潮目交流館において、「いわき里山交流フェスタ」を開催します。

会場には、いわき市内各地の中山間地域から里山の恵みが大集合します。三和町ふれあい市場や山ぼうしの家等の直売所による販売ブースや、磐城手業の会による野鍛冶の展示・販売、平成23年に起こった東日本大震災の余震である4.11の地震で発生した田人地区井戸沢断層の解説トーク、草野心平記念文学館の展示ブースなど、中山間地域の幅広く奥深い魅力に触れることのできるイベントです。

また、遠野和紙の体験ブースで製作した行灯は、3月6日（日）に平中央公園で実施されるキャンドルナイト会場に展示されます。

皆さま奮ってご参加ください！お問い合わせは、いわき地方振興局復興支援・地域連携室（TEL：0246-24-6253）までお願いします。

平成27年度福島県地方振興総合支援事業（県営地産物）

# いわき里山交流フェスタ

いわきと言えば、海？ いえいえ、海だけじゃないんです。  
“中山間地域”と呼ばれる山あいの地域に魅力がたくさん詰まっています。  
あなたもその魅力に触れてみませんか？

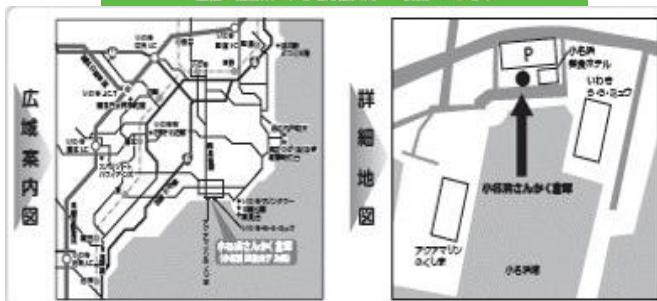
里山の魅力が  
小名浜に大集合!!

日時 **平成28年 2月28日**  
11:00～15:00

場所 小名浜さんかく倉庫2号棟潮目交流館  
(小名浜美食ホテル隣)

お問い合わせ 福島県いわき地方振興局 復興支援・地域連携室  
TEL：0246-24-6253

主催：福島県いわき地方振興局 後援：いわき市



(いわき地方振興局)

## 「平成27年度第2回いわき地域農業再生 協議会通常総会」が開催されました！

1月20日（水）、JAいわき市飯野支店において、平成27年度第2回いわき地域農業再生協議会の通常総会が開催されました。

まず、事務局よりいわき市の平成27年産米の生産数量の目標達成や、経営所得安定対策の実績などの報告がありました。

続いて、いわき市の平成28年産米の生産数量の配分方法及び水田への主食用米以外の作付けをさらに拡大するため、協議会が自主的取組参考値を努力目標として提示することが了承されました。

現在、米の生産・販売情勢は厳しく大きな変革を求められており、生産者の所得確保のため、いわき地方は水田をフル活用した非主食用米の積極的な取組や他品目への転換を推進しています。地域間調整と併せて、特に飛躍的に伸びている飼料用米については、多収性品種の種子を確保してほしい等の要望もありました。

今後、生産者の所得向上につながるような制度の周知や推進について、関係機関と共に取り組んでいく予定です。

(農業振興普及部)



## いわき地方の農林水産物 モニタリング検査結果

### 農林畜産物の検査結果

福島県が行った、いわき地方の1月の農林畜産物の放射性物質モニタリング検査結果をお知らせします。

検査した6品目21検体の全てにおいて、放射性セシウムが検査機器の検出限界値以下でした。内訳は（表1）のとおりです。

(表1)1点も放射性セシウムが検出されなかった品目と検体数

コマツナ(施設) 1、ネギ 1、菌床しいたけ(施設) 4、菌床なめこ(施設) 1、牛肉 10、原乳 4

1月31日現在、いわき地方産の農林畜産物で出荷が制限されているのは、（表2）のとおりです。

(表2) 出荷制限及び出荷自粛品目 (1月末現在)

制限、自粛	区分	品目
出荷制限 (7品目)	野菜・根菜・芋類	—
	果物	—
	穀類	—
	山菜	たけのこ、ぜんまい、わらび、こしあぶら、たらのめ(野生のものに限る)
	きのこ	原木なめこ(露地)、野生きのこ
畜産物	—	
出荷自粛 (1品目)	山菜	さんしょう(野生のものに限る)

《大豆・小豆・そばの穀類は、出荷・販売前に必ず放射性物質モニタリング検査の結果を確認しましょう!》

大豆、小豆、そばなどの穀類は、県による放射性物質モニタリング検査を産年ごと旧市町村ごとに実施しており、検査の結果、出荷可能と判断されて初めて販売できます。

詳しくは、福島県水田畑作課のホームページで確認するか、当所までお問合せください。

○水田畑作課ホームページ

平成27年産穀類のモニタリング検査の旧市町村別進捗状況

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36035b/daishin-sai-kokurui-monitoring-shinchoku-27.html>

○問い合わせ先

いわき農林事務所農業振興普及部  
電話:0246-24-6161

平成27年産米の全袋検査結果

平成27年産米の全袋検査は、1月末までの検査点数534,255点のうち、99.99%の534,184点、184点が測定機器の測定下限値未満、71点が基準値内で検出が確認されましたが、基準値を超過したものではありませんでした。

玄米(平成27年産)検査状況(1月末現在)

測定値区分 (単位: Bq/kg)	測定下限値 未満(<25)	25 ~ 50	51 ~ 75	76 ~ 100	100 以上	計
検査点数 (点)	534,184	70	1	—	—	534,255
割合 (%)	99.99	0.01	0.00	—	—	100.00

(1月29日付け 水田畑作課HPIにより確認)

調査結果は、福島県のホームページ「ふくしま新発売。」の農林水産物モニタリング情報で簡単に検索できますので、結果をご確認ください。

(企画部)

海産魚介類の検査結果

福島県沖で採取された海産魚介類への放射能の影響は、時間の経過とともに着実に低下しています。

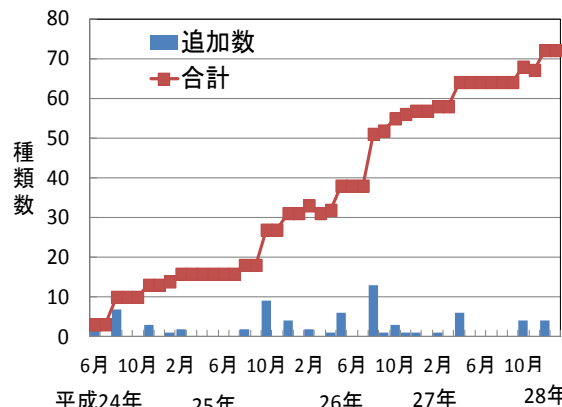
平成28年1月に放射性セシウム食品としての基準値100Bq/kgを超えたものはありませんでした。

なお、平成27年3月7日以降に採取された海産魚介類で基準値の100Bq/kgを超えたものはありませんでした。

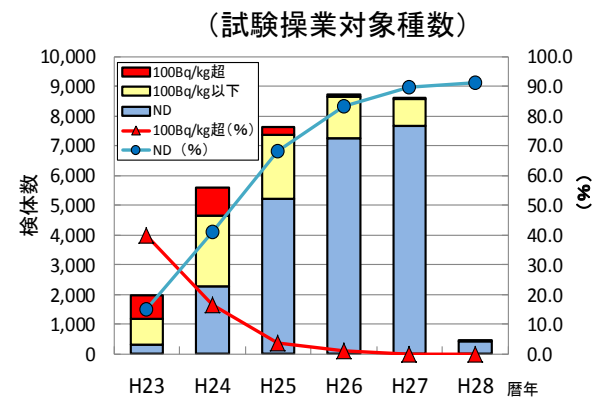
現在は、モニタリング検査結果により、安全が確認された魚介類72種類を対象に試験操作が行われています。

(平成23年以降のモニタリング検体数と放射性セシウム検出の割合)

年		100Bq/kg 超	100Bq/kg 以下	不検出	計
H23	検体数	785	893	294	1,972
	割合(%)	39.8	45.3	14.9	100.0
H24	検体数	921	2,372	2,287	5,580
	割合(%)	16.5	42.5	41.0	100.0
H25	検体数	280	2,147	5,214	7,641
	割合(%)	3.7	28.1	68.2	100.0
H26	検体数	75	1,387	7,260	8,722
	割合(%)	0.9	15.9	83.2	100.0
H27	検体数	4	896	7,677	8,577
	割合(%)	0.05	10.4	89.5	100.0
H28	検体数	0	41	423	464
	割合(%)	0.00	8.8	91.2	100.0
計	検体数	2,065	7,736	23,155	32,956
	割合(%)	6.3	23.5	70.3	100.0



※採取月日で集計



(水産事務所)

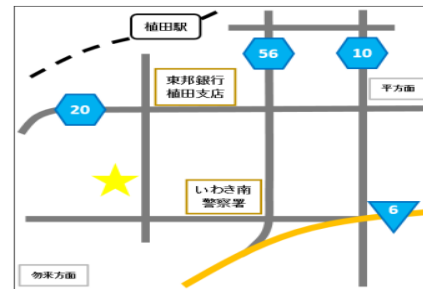
## 食彩ふくしま地産地消推進店のメニューの紹介

地産地消推進日(3月は8日(火))に合わせ、いわき農林事務所に情報提供のあった食彩ふくしま地産地消推進店のメニューを紹介しますので、ぜひご賞味ください。

なお、店舗の都合により内容は変更される場合がありますのでご了承ください。  
また、営業日(メニューの実施日)については、事前にご確認ください。

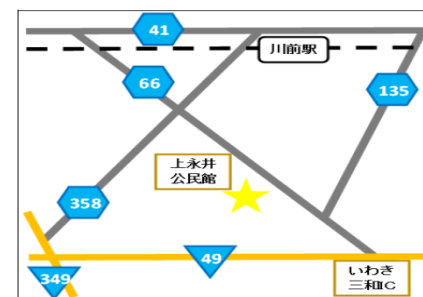
### ○ 北の屋そばや(植田町本町1-10-1)

- ・地産地消メニュー: 鶏ごぼうそば・うどん、かき玉うどん、なべやきうどん
- ・説明: 提供する料理にはいわきの野菜をできるだけ多く使用しています。月曜日から金曜日まで得々ランチを実施しています。
- ・店舗の電話番号: 0246-62-4752



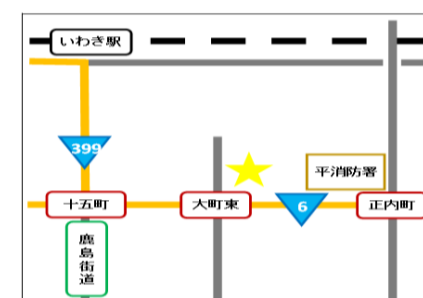
### ○ 農家そば屋(三和町上永井字大平田164)

- ・地産地消メニュー: もりそば、天ぷらそば
- ・説明: そばをはじめ、カボチャ、ナス、インゲン等の天ぷら等も地元三和町産を使用しています。  
※ 土日祝日のみ営業。2月28日(日)まで冬季休業、3月5日(土)から営業再開。
- ・店舗の電話番号: 0246-87-2240



### ○ 正月荘(平字大町33)

- ・地産地消メニュー: 海鮮鍋、海鮮有頭海老サラダ、ヤナギガレイの姿焼き、マグロとイカの酢味噌和え
- ・説明: 試験操業で水揚げされたヤナギガレイのほか、サラダに利用するトマトやパプリカ等の野菜等に福島県産を使用しています。  
※ 3月5日(土)に実施します。
- ・店舗の電話番号: 0246-23-3104



いわきの情報をお知らせします！

## 福島県いわき農林事務所

いわき市平字梅本15番地(福島県いわき合同庁舎3F)  
TEL.0246-24-6197 FAX.0246-24-6196

mail kikaku.af07@pref.fukushima.lg.jp  
http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/

いわき農林事務所

検索

地域産業6次化の  
取組により誕生した  
スイーツを  
ご紹介します！

いわき農林事務所では、市内のケーキ店等と協力し、いわき地域の豊かな農林水産資源を活用した6次化商品の開発を行っています。

今回は、内郷にある「お菓子工房ルポ」で開発した「イチジクタルト」と「イチジクパウンドケーキ」をご紹介します。原材料には、乾燥させたいわき市産イチジクのチップを使用しています。イチジクは収穫時期が短く、通年流通が難しいことから、乾燥チップに加工したものを使っています。

「お菓子工房ルポ」の馬目社長は、「地元で採れたものでお菓子をつくり、地域活性化に貢献したい」との思いから、県の事業に参加することを決め、何度も試作を重ねながら6次化商品の開発に取り組まれました。

商品づくりは、「素材が持つ美味しさを最大限に引き出すこと」であり、使用するイチジクの乾燥チップを柔らかく戻し、その際に染み出るエキスを生地練りに練り込むことにより、イチジク本来の持つ香りや独特の風味、味を引き出すことに成功しました。

どちらの商品も、イチジクのプロテクションとした食感が楽しめ、「生のイチジクが苦手な方にも、お菓子を通して美味しさを感じてほしい」との思いが詰まっていますので、ぜひご賞味ください。

## お菓子工房 ルポ

【本店】  
・いわき市内郷御台境町六反田53-25 faaビル  
・TEL.0246-26-0500  
・営業時間10:00～19:00(無休)

【ラトブ店】  
・LATOV1階・TEL:0246-21-8223

※原材料の入手状況により商品展示が異なることがありますので、お買い求めの際は、事前に上記店舗までお問い合わせください。



イチジクパウンドケーキ  
173円(税抜価格)



イチジクタルト  
450円(税抜価格)

## いわき農林事務所からのお知らせ

○ふくしまの最新情報を「ふくしま 新発売。」に掲載していますのでどうぞご利用ください。

<http://www.new-fukushima.jp/index.html>

- 1 「がんばろう ふくしま応援店！」一覧
- 2 イベント情報
- 3 農林水産物モニタリング情報
  - (1) モニタリング情報検索
  - (2) 出荷制限等一覧表

「東日本大震災」  
及び「原発事故」からの  
復興のために！



◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。  
福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課  
〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地  
(県いわき合同庁舎 3階)  
TEL (0246)24-6152 FAX (0246)24-6196  
URL <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/>



いわき農林水産ニュース